

(社)農協共済総合研究所  
常任監事

あさ の ひろ し  
浅 野 博 司

障害者の支援について調べていたら、「自立」の反対語が「依存」というのは勘違いだという意見が目にとまりました。出生時のアクシデントにより痙直型の脳性まひになり、物心つく前から厳しいリハビリ訓練を受け、しかし、成長とともにリハビリをやめて試行錯誤を重ねながら自立生活を確認してきた小児科医・研究者の発言です。東日本大震災のときエレベーターが止まって、車椅子による移動しかできない自分は5階の研究室から逃げ遅れてしまった。他の人は階段やはしごで逃げられた。つまり、5階から逃げるという行為について、普通ならエレベーター・階段・はしごという三つの依存先があるのに、自分にはエレベーターしかなかったということ为例に挙げ、これが障害の本質ではないかと述べています。<sup>1</sup>

“障害者”というのは、「依存先が限られてしまっている人たち」のこと。健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人と勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものにしか依存できていない。

依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存していないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされていて、

その便利さに依存していることを忘れてるわけです。

自立を目指すなら、むしろ依存先を増やさないといけない。

自立という言葉は、ふつう、なにものにも頼らずに自分ひとりの力で何とかする、誰の助けも借りずに生きていくという意味で使われることが多いように思います。その場合、自己決定や自己責任などの、どこか社会的弱者の切り捨てを是認するようなスローガンの言葉につながっているような気がする分、私は違和感を感じていたのです。

「依存先を増やす」ことこそ目指すべきであること。依存しないことが自立なのではなく新たな依存先に出会っていくことこそ自立であるというこの指摘。新鮮に感じ、かつ、なるほどと思いました。

別の本を読んでいたら、ほぼ同じことが言われているくだけりがありました。これも引用しておきましょう。<sup>2</sup>

自分一人では何もできないことがわかった時が、自立なんでしょうね。(平川)

自立というのは、いざとなったらインターディペンダンス (interdependence : 相互依存) の仕組みがいつでも使える状態にあることだと思う。いざとなったら誰かが助けてくれるようなネットワークを、自分できちんと用意できて

---

---

いるのが本当の意味での成熟、一人前ということじゃないかな。(鷺田)

人は生まれてから死ぬまで多くのものに依存し、同時に依存されています。そのことに気づき、この社会で生きていく当事者として相互扶助の多様なネットワークをきちんと用意し、柔軟に運用していくことが人の自立、成熟ではないかというわけです。

さらに言えば、このようなネットワークが着実に存在することあるいはそれを作ろうとすることが、地域や社会全体の成熟、住みやすさの条件でもあるのではないのでしょうか。これは協同組合が目指すものでもあります。

今となっては、あれが特殊だったのだと思われ知らされた高度成長の時代には、ひょっとすると、成熟などということは深く考えずに済んでいたのかもしれませんが。それはそれで幸せだったとも言えます。しかし、長期的な停滞と混乱の時代を迎え、市場原理や効率性だけでは全体の幸せが成り立たないことがはっきりしてきた現在、互いにリスクを引き受け合う成熟した社会を目指す必要があります。

マスメディアやネット空間の議論を見ると、他責的な物言いや粗雑な言葉、性急で自己中心的な「改革」の主張と強行が目立って、げんなりしてしまいます。このような場所では、大人を思わせる人にはあまりお目にかかりません。しかし、シャバ（地域）で生活し、相互扶助的なネットワークに関与する有名・無名の人々の中に、成熟のロールモデルが年齢にかかわらず確実に存在するというのが私の印象です。

話が少し飛びます。TPPの危険性について

です。TPPは、農業をはじめとするわが国の産業・環境・文化の破壊を伴う米国ルールへの押し付けであり、グローバル企業の利益のために「日本人を社会性（＝連帯）なきバラバラの個人に、市民たり得ない消費者に還元してしまう」<sup>3</sup>ものです。だとすると、これによりもたらされる社会は、上述の成熟した社会、住みやすい社会とは正反対の、多様なものとの共生を拒む、とげとげしいものとなるのではないのでしょうか。このことからしても、TPP参加は選んではならない道です。

以上、なんだか識者の言葉の引用に頼った文になってしまいました。（こういうのは、依存先を増やすことによる自立・成熟とは言わないと思いますけど。）

できることは何かを考え、こつこつとやっていくことにしましょう。

最後にもうひとつだけ、すてきな言葉を紹介しておきます。<sup>4</sup>

大人だということは「もうそんなに長い時間は残ってないんだから、なるべく他人を幸せにしよう」と考えることだ。

1 熊谷晋一郎インタビュー「自立は、依存先を増やすこと 希望は、絶望を分かち合うこと」『TOKYO人権』第56号（2012年11月27日）（[http://www.tokyo-jinken.or.jp/jyoho/56/jyoho56\\_interview.htm](http://www.tokyo-jinken.or.jp/jyoho/56/jyoho56_interview.htm)）

2 平川克美『移行期的混乱』ちくま文庫2013。巻末の鷺田清一との対話

3 堀茂樹 (@hori\_shigeki) のツイート（2013年2月19日）なお、このツイートの全文は以下のとおり。

TPPの狙いは何か？ 究極的には、「脱国家」「脱民主主義」「脱社会」だと思います。即ち、①「日本」という制度を世界市場の中に溶かしてしまう事、②民衆の声を代表する議会の外で重大事を決する事、③日本人を社会性（＝連帯）なきバラバラの個人に、市民たり得ない消費者に還元してしまう事です。

4 二村ヒトシ『すべてはモテるためである』ぎんが堂2012。